Keyword 人間関係　ポートレート　空間　距離感

間

芸術研究科 造形表現専攻
写真・映像領域 博士前期課程
2024年3月修了

聞天農

主査 百瀬俊哉　**副査** 大日方欣一　佐藤慈

研究背景

写真を撮っているうちに、自分が撮りたいのは私と被写体の間にある空間であることに気づきました。もちろんこれは撮影時の物理的なことではなく、それは“雰囲気”、一種の“感情” あるいは被写体の“鼓動”と言えるかもしれません。それは結果として人との距離やつながり、“エネルギー”として認識しているようです。

研究目的

人を被写体にする写真家はたくさんいますが、その多くは時代や地域の問題を反映させようとしていることが多いようです。自分は見知らぬ人を撮影して以来、私と被写体の関係がどうなっているのかをよく考えています。私たちが互いに面識がなくても、接しているすべての人は独立して存在しており、私たちしか作れない空間があるようです。このような目に見えない、自分しかできない空間を探し、表現していきたいと思いました。

研究概要

成果・まとめ

この制作を通して、私は自分自身とポートレート写真に対する認識をより深く理解することができました。自分の心に忠実であること、被写体に理解しようとすること、それは永遠に芸術創作の本質であり、また、写真から社会的・歴史的な情報をすべて取り除くことによっても、写真の社会的次元を抑えているにもかかわらず、私はこれを写真表現の境界線に対する積極的な探求であるとも考えています。私はこれからも研究、撮影、探求し続けたいと考えています。

指導教員コメント

淡々と撮影されたポートレートからは作者の独特な視点が伝わってくる。写真によって視覚化していくことで、表情や仕草以上の情報を、鑑賞する者に与ている多角的に表現された作品である。今後も作者が継続してポートレートを撮影することで、何を感じ、意味しているのかが、明らかになっていくことも期待している。

百瀬俊哉